

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度	自	2018年4月1日
(第52期)	至	2019年3月31日

株式会社オービック

東京都中央区京橋二丁目4番15号

(E05025)

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 沿革	3
3 事業の内容	4
4 関係会社の状況	5
5 従業員の状況	6
第2 事業の状況	
1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	7
2 事業等のリスク	8
3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	9
4 経営上の重要な契約等	12
5 研究開発活動	12
第3 設備の状況	
1 設備投資等の概要	13
2 主要な設備の状況	13
3 設備の新設、除却等の計画	14
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	15
(2) 新株予約権等の状況	15
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	15
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	15
(5) 所有者別状況	16
(6) 大株主の状況	16
(7) 議決権の状況	17
2 自己株式の取得等の状況	18
3 配当政策	18
4 コーポレート・ガバナンスの状況等	19
第5 経理の状況	30
1 連結財務諸表等	
(1) 連結財務諸表	31
(2) その他	58
2 財務諸表等	
(1) 財務諸表	59
(2) 主な資産及び負債の内容	70
(3) その他	70
第6 提出会社の株式事務の概要	71
第7 提出会社の参考情報	
1 提出会社の親会社等の情報	72
2 その他の参考情報	72
第二部 提出会社の保証会社等の情報	73

[監査報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年6月28日
【事業年度】	第52期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
【会社名】	株式会社オービック
【英訳名】	OBIC Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 橋 昇一
【本店の所在の場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03) 3245-6500 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理本部長 井坂 眞持
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋二丁目4番15号
【電話番号】	(03) 3245-6500 (代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理本部長 井坂 眞持
【縦覧に供する場所】	株式会社オービック大阪本社 (大阪府大阪市中央区博労町三丁目5番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	56,344	58,738	61,453	66,814	74,163
経常利益 (百万円)	27,726	29,521	32,246	35,570	41,927
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	18,776	23,157	23,359	26,268	32,223
包括利益 (百万円)	21,450	20,100	24,983	28,344	32,201
純資産額 (百万円)	150,584	160,522	177,500	197,394	218,476
総資産額 (百万円)	173,542	181,522	200,061	221,260	244,909
1株当たり純資産額 (円)	1,679.12	1,804.63	1,995.50	2,219.15	2,456.16
1株当たり当期純利益金額 (円)	209.37	259.41	262.61	295.32	362.26
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	86.8	88.4	88.7	89.2	89.2
自己資本利益率 (%)	13.2	14.9	13.8	14.0	15.5
株価収益率 (倍)	24.4	22.9	20.2	30.0	30.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	20,980	16,656	21,311	26,107	29,843
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,570	4,377	2,314	△6,320	△8,209
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△5,381	△10,117	△8,005	△8,450	△11,119
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	71,584	82,502	98,121	109,458	119,972
従業員数 (人)	1,979	1,983	2,024	2,034	2,058

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第48期	第49期	第50期	第51期	第52期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	49,991	51,637	53,910	58,719	65,068
経常利益 (百万円)	25,504	26,965	29,566	32,619	37,934
当期純利益 (百万円)	16,850	20,941	20,996	23,680	28,700
資本金 (百万円)	19,178	19,178	19,178	19,178	19,178
発行済株式総数 (株)	99,600,000	99,600,000	99,600,000	99,600,000	99,600,000
純資産額 (百万円)	118,332	126,258	140,829	158,120	174,733
総資産額 (百万円)	138,833	144,219	160,475	178,773	197,473
1株当たり純資産額 (円)	1,319.49	1,419.42	1,583.23	1,777.62	1,964.39
1株当たり配当額 (円)	65.00	85.00	90.00	115.00	135.00
(内1株当たり中間配当額)	(30.00)	(37.50)	(42.50)	(47.50)	(57.50)
1株当たり当期純利益金額 (円)	187.89	234.59	236.04	266.22	322.65
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	85.2	87.5	87.8	88.4	88.5
自己資本利益率 (%)	15.1	17.1	15.7	15.8	17.2
株価収益率 (倍)	27.1	25.4	22.5	33.2	34.6
配当性向 (%)	34.6	36.2	38.1	43.2	41.8
従業員数 (人)	1,789	1,785	1,822	1,848	1,875
株主総利回り (%)	158.4	187.1	169.9	282.4	357.4
(比較指標：TOPIX (東証株価指数)) (%)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価 (円)	5,200	6,900	6,190	9,520	11,320
最低株価 (円)	2,894	4,755	4,815	5,210	8,030

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第51期の1株当たり配当額には、創立50周年記念配当10円を含んでおります。

4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所（市場第一部）におけるものです。

2 【沿革】

年月	事項
1968年4月	会計機その他の事務機器等の輸出入及び国内販売を目的として大阪市西区阿波座南通に株式会社大阪ビジネスを設立
1969年5月	本店を大阪市東区常盤町に移転
1971年11月	東京支店（現東京本社）開設
1972年8月	株式会社オービーシステム設立（現・関連会社）
1973年12月	名古屋支店開設
1974年1月	商号を株式会社オービックに変更し、本店を大阪市南区塩町通に移転
1976年1月	東京、大阪2本社制実施、福岡支店開設
7月	株式会社オービックオフィスオートメーション設立
1979年11月	本店を大阪市南区順慶町通に移転 株式会社オービックオフィスオートメーション・中部設立
1980年12月	株式会社オービックビジネスコンサルタント設立（現・関連会社）
1981年9月	株式会社オービックビジネスソリューション設立
1982年2月	住居表示の変更により本店所在地を大阪市南区南船場に変更
8月	静岡営業所、広島サービスセンター（現広島営業所）開設 株式会社オービックシステムエンジニアリング（大阪）設立
1983年4月	株式会社オービックシステムエンジニアリング（東京）設立
10月	株式会社オービックシステムエンジニアリング（名古屋）設立
11月	株式会社新潟オービックシステムエンジニアリング設立（現・関連会社）
1984年2月	横浜支店開設
1986年1月	北九州営業所開設（福岡支店に統合）
1987年7月	千葉支店開設
1988年10月	京都支店開設
1989年2月	合区実施による区変更のため本店所在地を大阪市中央区南船場に変更
1994年8月	松本出張所（現松本営業所）開設
1995年3月	本店を大阪市中央区博労町に移転
10月	北関東営業所（現北関東支店）開設
1996年1月	株式会社オービックオフィスオートメーション・中部は、株式会社オービックオフィスオートメーションを吸収合併し、同時に商号を株式会社オービックオフィスオートメーションに変更（現・連結子会社）
9月	本店を東京都中央区日本橋本町に移転
10月	立川営業所、厚木営業所開設
1998年12月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
1999年10月	株式会社オービックビジネスコンサルタントの株式を店頭市場に公開
2000年3月	東京証券取引所の市場第一部に指定
2003年10月	株式会社オービックシステムエンジニアリング（大阪）、株式会社オービックシステムエンジニアリング（東京）、株式会社オービックシステムエンジニアリング（名古屋）の3社は合併し、商号を株式会社オービックシステムエンジニアリングに変更
2004年3月	株式会社オービックビジネスコンサルタントの株式を東京証券取引所の市場第一部に上場
2005年1月	東京新本社ビルが竣工し、本店を東京都中央区京橋に移転
2006年3月	情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）認証基準の取得
2007年10月	Microsoft Regional Sales CorporationとISVロイヤリティ契約を締結
2012年10月	連結子会社であった株式会社オービックシステムエンジニアリング及び株式会社オービックビジネスソリューションの2社を吸収合併

3 【事業の内容】

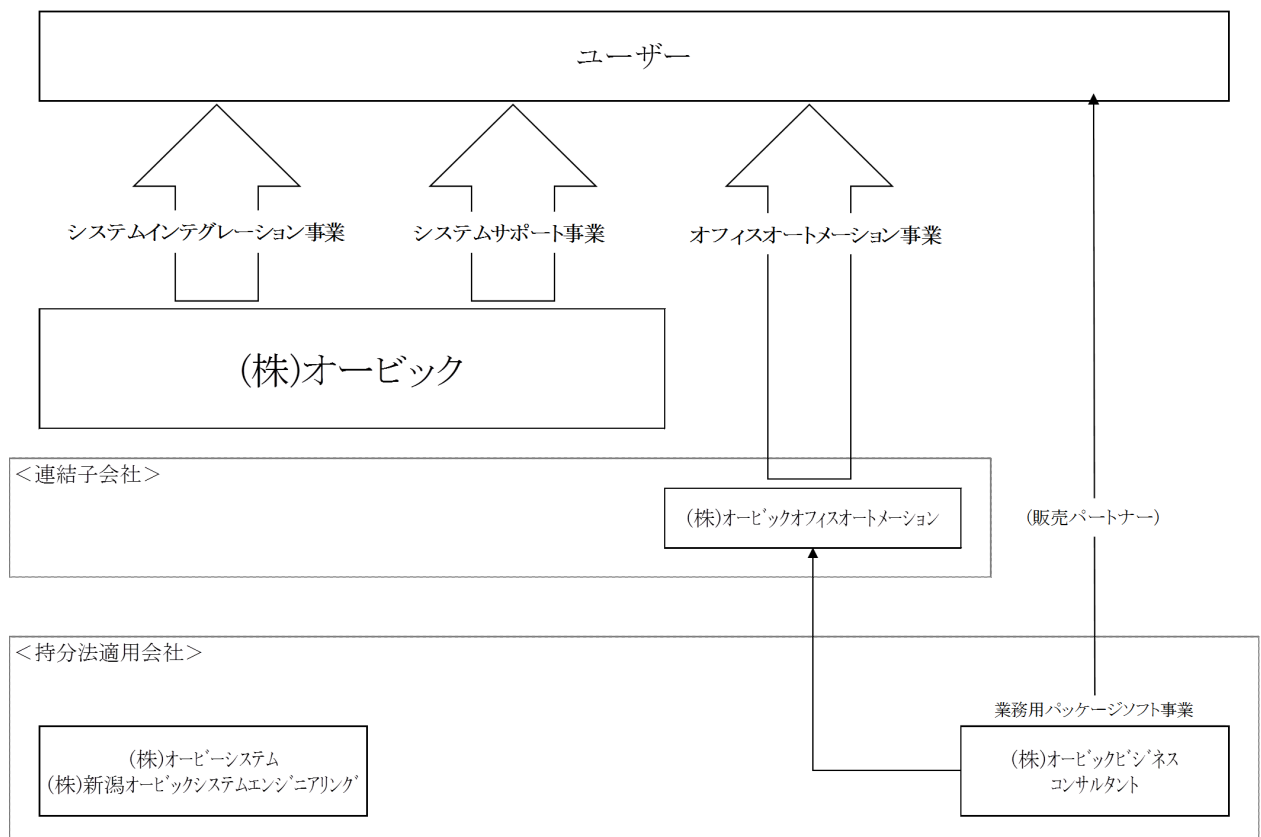
当社グループは、株式会社オービック（当社）及び連結子会社1社並びに持分法適用関連会社3社等により構成されており、事業は主に企業情報システムのシステムインテグレーション事業、システムサポート事業、オフィスオートメーション事業、及び業務用パッケージソフト事業を行っております。

事業内容及び当社と関係会社の当該事業にかかる位置づけ並びにセグメントとの関連は、次の通りであります。

なお、事業区分のうち業務用パッケージソフト事業については、関連会社で行っているため、事業のセグメントには含まれておりません。

区分	主要製品	主要な会社	
システムインテグレーション事業	顧客に対する総合情報システム	製造・販売	当社
		委託加工	(株)オービーシステム (株)新潟オービックシステムエンジニアリング
システムサポート事業	ハードウェア保守	メンテナンス実施	当社
	システム運用サポート	メンテナンス実施	当社
オフィスオートメーション事業	OA機器一般及びコンピュータサプライ用品	仕入・販売	(株)オービックオフィスオートメーション
業務用パッケージソフト事業	財務会計等パッケージソフト	製造・販売	(株)オービックビジネスコンサルタント

以上の企業集団などについて図示すると次の通りであります。



4 【関係会社の状況】

(1) 連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社オービック オフィスオートメー ション	東京都中央区	320	オフィスオートメーション事業	100.0	同社仕入商品の購入

(注) 1. 特定子会社に該当するものではありません。

2. 株式会社オービックオフィスオートメーションは、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。主要な損益情報等は以下の通りとなっております。

売上高	9,538百万円
経常利益	1,554百万円
当期純利益	1,075百万円
純資産額	7,913百万円
総資産額	11,639百万円

(2) 持分法適用関連会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
株式会社オービーシ ステム	大阪市中央区	74	システムインテグレーション事業	39.2	ソフトウェアの委託 加工
株式会社オービック ビジネスコンサルタ ント	東京都新宿区	10,519	業務用パッケージソフト事業	36.2	同社製造製品の購入
株式会社新潟オービ ックシステムエンジ ニアリング	新潟市中央区	80	システムインテグレーション事業	40.0	ソフトウェアの委託 加工

(注) 株式会社オービックビジネスコンサルタントは有価証券報告書を提出しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

会社名	セグメントの名称	従業員数（人）
(株) オービック	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	1,875
(株) オービックオフィスオートメーション	オフィスオートメーション事業	183
合計		2,058

(注) (株)オービックにおいて特定のセグメントに区分できないためそれぞれ会社別に記載しております。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（才）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
1,875	36.4	13.5	9,010,000

(注) 平均年間給与（税込み）は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、株式会社オービック(当社)及び連結子会社1社並びに持分法適用関連会社3社等より構成されており、事業は主に企業情報システムのシステムインテグレーション事業、システムサポート事業、オフィスオートメーション事業及び業務用パッケージソフト事業を行っております。

なお、業務用パッケージソフト事業は持分法適用の関連会社で行っているため連結セグメントには含まれておりません。

常にマーケットに目を向け、ユーザーオリエンテッド(顧客第一主義)に徹し、顧客満足度を高めていくために、高い技術力と豊かな経験であらゆる産業のあらゆる企業に「価値ある情報システム」を提供し、その運用をサポートし企業の発展と共に変化・成長を続けるシステム全体を将来にわたり見守り、支え続けて行くことを経営の基本方針としております。

(2) 目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略ならびに会社の対処すべき課題

当社は中長期的に安定した企業の発展を考え、そのためには利益を意識した経営が重要であると考えております。自己資本利益率10%以上を一つの目標とし、それを維持・継続できるよう努めております。

従来からの自社開発製品を直接販売で提供する体制を重要とし、市場ニーズに直結したソリューションを首尾一貫して切れ目無くお届けできる基盤を整えております。

そのため、より多くのお客様への接点を増やし、継続した積極的な機構改革を推進し、営業力強化と生産性向上に努めてまいります。

「ワンストップソリューションサービス」これは中長期的に見た当社の重要なキーワードであります。導入コンサルティングから、システム構築、運用、情報提供まで当社グループ一貫体制でトータルに「企業の情報システム構築と運用」をサポートしてまいります。

今年度も、継続したイノベーションを重視して顧客満足度の向上に取り組む中で、以下の項目を重要課題として重視してまいります。

I 製販一体体制の推進

II カスタマイズ性の高い「OB I C 7シリーズ」によって、生産性の向上に取り組む。

III 人材の育成と活性化に注力する。

「経営資源を選択・集中し継続する」ことこそが経営にとって重要であると認識しており、今後ともグループ企業各社はその特徴を生かしつつ独立した企業としてグループ内での役割分担を明確にし、「グループの発展」のため経営努力をしてまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものが考えられます。なお、将来に関する事項については、当連結会計年度末（2019年3月31日）現在において判断したものであり、特に経営成績に重要な影響を与える恐れがあるものを中心として記載しております。

なお、以下のリスクが顕在化する可能性は、現時点において極めて低いと考えております。

(1) 製品及び製品開発におけるリスク

当社の主力製品である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は現在、総売上高の半分以上を占める主力製品であります。このコアシステムと周辺のサブモジュール群はそれを支えるプラットフォームや開発言語の進化・変遷により開発のタイミングや製品の開発手法に大きな影響を及ぼすものであり、製品開発における発売時期の遅延やコストの上昇により業績が影響されるリスクがあるものと考えております。

(2) モチベーションの高い人材の流失とノウハウの喪失に関するリスク

当「情報サービス業界」は他の装置産業等に比べ労働集約的な側面があり「人材のモチベーション」が、よりダイレクトに業績に影響する可能性のある業界であります。当社は優秀な人材の確保と育成に毎年多くの時間とコストをかけ将来性豊かな社員の育成に努めてまいりました。

仮想ではありますが、敵対的な買収者による奇襲攻撃的な企業買収行為が起きた場合には、人心の混乱を招き、結果としてモチベーションの高い人材の流失やノウハウの喪失を招くとすれば、安定的・継続的に成長・発展させていく企業活動にとって致命的な損失であり、当社の経営成績に重大な影響を与える可能性があると考えております。

(3) 顧客から預かるテストデータに関しての情報管理におけるリスク

当社は、事業の性格上、システム導入や運用サポート時に、顧客企業のデータや情報を取り扱う場合があります。取り扱いに際しては、個人情報保護法に準拠して、情報管理規定の整備、研修を通じた社員への周知徹底、インフラのセキュリティ強化などにより、管理の強化・徹底と漏洩の防止に努めております。

しかしながら、情報の授受、運搬時における紛失や盗難などにより、顧客企業の個人情報漏洩した場合には、当該顧客からの損害賠償請求による費用発生や、社会的信用の低下などにより、当社の経営成績に影響を与える可能性があると考えております。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、輸出や生産の一部に弱さもみられるものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行きなど海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響など、景気の先行きは不透明な状況にあります。

当情報サービス業界においては、働き方改革への取り組みなどを背景に、企業の生産性向上や業務効率化を目的としたシステムの更新投資需要は引き続き高い状態にあるものの、先行き不透明な景況感の中で投資判断には慎重さが見られました。企業のニーズは「効率的でコストパフォーマンスの高い情報システム」にあり、さらなる顧客目線でのシステム提案が求められております。

当社は、このような状況の中、自社開発・直接販売にこだわり続け、顧客企業の経営効果を実現するため、製販一体体制のもと顧客満足度を高めるべく努めてまいりました。当社の主力である統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、会計を中心に統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に幅広く求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。業種・業務別のソリューションに関しても、金融業向け、サービス業向け、流通業向け、製造業向け等、業種を問わずシステム構築の引き合いが強まりました。システムの短期導入、早期稼働につながりやすいとして引き合いが強まっているクラウドサービスのニーズにも、顧客に合わせた提案で対応しております。また、クラウド関連施設の増強や顧客向け研修施設の拡張など付加価値向上につながる先行投資も進めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の連結業績は、売上高741億63百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益379億39百万円(同17.4%増)、経常利益は419億27百万円(同17.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は322億23百万円(同22.7%増)となりました。

今後も当社は、顧客第一主義のもと、よりコストパフォーマンスの高いシステム提案ビジネスに注力し業績の向上に努めてまいり所存であります。

セグメントの業績は次の通りであります。

(A) システムインテグレーション事業

主力の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は、統合的に情報を管理するERPシステムとして、様々な業界・業種の企業に求められました。主な傾向として、大企業向けのシステム構築が引き続き順調に推移しております。

この結果、外部顧客に対する売上高は380億5百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益は190億24百万円(同13.0%増)となりました。

(B) システムサポート事業

主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」および「クラウドソリューション」が好調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は270億57百万円(前年同期比15.5%増)、営業利益は173億64百万円(同21.2%増)となりました。

(C) オフィスオートメーション事業

主力の業務用パッケージソフトの販売に加え、印刷サプライやオフィス家具等の販売も堅調に推移いたしました。

この結果、外部顧客に対する売上高は91億円(前年同期比12.4%増)、営業利益は15億50百万円(同33.7%増)となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は1,199億72百万円となり、前連結会計年度末に比べ、105億14百万円増加いたしました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、298億43百万円（前年同期比14.3%増）であります。これは主に税金等調整前当期純利益が439億85百万円計上されたほか、利息及び配当金の受取額が16億42百万円計上された一方で、持分法による投資利益が35億64百万円計上されたこと及び法人税等の支払額が106億46百万円発生したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、82億9百万円（前年同期は63億20百万円の減少）であります。これは主に償却債権の回収による収入が20億60百万円発生した一方で、有形固定資産の取得による支出が105億9百万円発生したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、111億19百万円（前年同期は84億50百万円の減少）であります。これは主に配当金の支払額が111億18百万円発生したことによるものであります。

なお、今後とも資金を企業の業績伸長のため有効に使用しつつ、「効率経営」に努力をしまいる所存であります。

③受注及び販売の実績

(A) 受注実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比 (%)
システムインテグレーション事業 (百万円)	35,241	143.5
システムサポート事業 (百万円)	31,062	116.3
オフィスオートメーション事業 (百万円)	8,968	109.6
合計 (百万円)	75,272	126.6

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(B) 販売実績

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	前年同期比 (%)
システムインテグレーション事業 (百万円)	38,005	107.7
システムサポート事業 (百万円)	27,057	115.5
オフィスオートメーション事業 (百万円)	9,100	112.4
合計 (百万円)	74,163	111.0

- (注) 1. 金額は販売価額によっております。
2. セグメント間の取引については相殺消去しております。
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

当連結会計年度の当社グループにおける財政状態及び経営成績の分析は以下のとおりであります。

①財政状態の分析

当連結会計年度末における資産合計残高については、前連結会計年度末比で236億48百万円増加し2,449億9百万円となりました。これは主に、現金及び預金が105億14百万円増加したこと及び建設仮勘定が96億58百万円増加したことによるものであります。

負債合計残高は、25億66百万円増加し264億32百万円となりました。これは主に、未払法人税等が13億円増加したことによるものであります。

純資産合計残高は、210億81百万円増加し2,184億76百万円となりました。これは主に、利益剰余金が211億4百万円増加したことによるものであります。結果、自己資本比率は89.2%となりました。

②経営成績の分析

当連結会計年度の連結業績は、売上高741億63百万円(前年同期比11.0%増)、営業利益379億39百万円(同17.4%増)、経常利益は419億27百万円(同17.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は322億23百万円(同22.7%増)となりました。

主力のシステムインテグレーション事業において、長年のシステム構築の実績と財務の安定性を土台に、製販一体での直販の営業力によって、企業の幅広いニーズを捉える顧客満足度の高い提案活動を続けております。またシステムサポート事業においても、主力サービスであるシステムの「運用支援サービス」および「クラウドソリューション」が好調に推移しております。オフィスオートメーション事業においては、付加価値の高い業務用パッケージソフトの提案に注力しております。

全体として営業利益率は51.2%となり、依然として業界トップクラスの高い収益性を確保しております。

なお、詳細な事業別の分析は、第3「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」

(1) 「経営成績等の状況の概要」①「財政状態及び経営成績の状況」の項目をご参照ください。

③関連会社株式について

グループ企業であります(株)オービックビジネスコンサルタントの株式は東京証券取引所市場第一部に上場しており、時価のある関連会社株式に該当します。当社の持分としては貸借対照表計上額が80億61百万円であるのに対して、期末の時価で算出すると1,235億27百万円となり、1,154億66百万円を含み益を有しています。グループ全体の時価として高い評価を得ております。

④資金の財源及び資金の流動性について

当社グループの資金需要については、営業活動については、商品等の購入費用、外注費、労務費、経費などがあります。そして、投資活動については、主に当社グループ事業に必要な設備機器の購入及び大阪府中央区のビル建築に関する建設費用であります。これらの需要に対しては、借入金にて資金を調達することなく、すべての資金は内部資金及び営業活動による資金にてまかなっており、今後もその方針であります。

当社グループの資金は、資金を安全性及び流動性を勘案して運用しているため、十分資金の流動性は確保されております。

4 【経営上の重要な契約等】

相手先	契約年月日	内容	契約期間
三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社	1970年6月1日	ハードウェアの仕入	自 1970年6月1日 至 1971年5月31日 以後1年毎自動延長
富士通株式会社	1983年9月20日	ハードウェアの仕入	自 1983年9月20日 至 1984年9月19日 以後1年毎自動延長
株式会社日立製作所	1998年3月17日	ハードウェアの仕入	自 1998年3月17日 至 1999年3月16日 以後1年毎自動延長
Microsoft Operations Pte Ltd.	2016年10月1日	ソフトウェアの仕入	自 2016年10月1日 至 2019年9月30日

5 【研究開発活動】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、コンピュータシステムの先端技術分野で今後の事業の中心となる製品の研究開発を進めており、連結財務諸表を作成する当社のシステムインテグレーション事業においてのみ行なっております。

当社の研究開発活動は、システムインテグレーション事業の総合的な観点から、ネットワーク技術や通信技術、ハードウェアの新製品に対する検証、あるいはソフトウェアやミドルウェアに対する検証等々の幅広い分野で研究活動を行っております。当社主力製品である基幹系の統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」は会計を中心に業務・業種別に分類・分析され、長年培ってきた豊富なノウハウとシステム技術が集約されており、顧客に対してコストパフォーマンスの高いシステムの提供を可能とするものであります。

当連結会計年度における研究開発費の総額は1,250百万円であります。

当連結会計年度における成果といたしましては、統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」の業務・業種別の整備や、クラウド・コンピューティング対応のシステム開発にも取り組んでまいりました。また、最新技術の調査研究や、将来的なIFRS（国際会計基準）をはじめとする様々な制度対応にも取り組んでおります。今後とも付加価値の高いソリューションの提案ができるよう努めてまいり所存であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）では、製品開発に伴う「開発用のコンピュータ及び関連機器」の購入を中心に社内の情報インフラ整備のために設備投資を毎年安定的に実施しております。当連結会計年度においては、報告セグメントには含まれない本社用地等への投資も含め、10,532百万円の設備投資を実施しております。

システムインテグレーション事業においては、主に業務別及び業種別システムの開発環境の構築、営業支援環境強化、システム部門における設計・検収・納品作業の効率化、ならびに情報セキュリティ向上に向けた社内インフラ整備のため505百万円の設備投資を実施しております。

システムサポート事業においては、主にシステム運用支援及びハードウェア保守ならびにネットワークサポートの向上のため、情報管理体制の強化を図るなど359百万円の設備投資を実施しております。

オフィスオートメーション事業においては、インフラ整備などのため8百万円の設備投資を実施しております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却・売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

2019年3月31日現在における当社グループ（当社及び連結子会社）の主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	帳簿価額				従業員数 (人)
		建物及び構築物 (百万円)	土地 (百万円) [面積㎡]	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
東京本社 (東京都中央区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	2,700 (395)	11,774 [1,169.85]	1,073	15,548	1,223
横浜支店 (横浜市西区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	1 (119)	—	3	5	167
名古屋支店 (名古屋市東区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	0 (110)	—	5	6	145
京都支店 (京都市下京区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	1 (42)	—	1	2	35
大阪本社 (大阪市中央区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	0 (163)	15,234 [4,353.09]	15,794	31,029	257
福岡支店 (福岡市博多区)	システムインテグレーション事業及びシステムサポート事業	2 (42)	—	4	7	48
厚生施設他	—	306	840 [30,444.47]	0	1,148	—

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具ならびに工具、器具及び備品であります。

2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 主要な賃借として、建物の年間賃借料を「建物及び構築物」の()内に外書きで表示しており、その総額は873百万円であります。

4. 上記金額には、連結財務諸表上において消去される固定資産の未実現利益金額が含まれております。

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	帳簿価額				従業員数 (人)
		建物及び構築物 (百万円)	土地 (百万円) [面積㎡]	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
(株) オービックオフィスオートメーション (東京都中央区)	オフィスオートメーション事業	32 (157)	—	13	46	183

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具ならびに工具、器具及び備品であります。
 2. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 主要な賃借として、建物の年間賃借料を「建物及び構築物」の()内に外書きで表示しております。
 4. 上記金額には、連結財務諸表上において消去される固定資産の未実現利益金額が含まれております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

大阪府中央区に自己資金による建物を建設中で、2017年5月に着手し、2020年1月に完了する予定であります。投資金額としては総額約260億を予定し、そのうち153億円は既に支払を完了いたしております。この建設は全社資産であり、報告セグメントに含まれておりません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	398,400,000
計	398,400,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数（株） （2019年3月31日）	提出日現在発行数（株） （2019年6月28日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	99,600,000	99,600,000	東京証券取引所 （市場第一部）	単元株式数100株
計	99,600,000	99,600,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減（株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金増 減額 （百万円）	資本準備金残 高（百万円）
2013年10月1日 (注)	89,640,000	99,600,000	—	19,178	—	19,413

(注) 株式分割（1：10）によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	58	29	46	554	4	2,788	3,479	—
所有株式数（単元）	—	181,267	5,502	189,772	375,094	2	244,254	995,891	10,900
所有株式数の割合（%）	—	18.20	0.55	19.05	37.67	0.00	24.53	100.00	—

（注） 自己株式10,649,488株は、「個人その他」に106,494単元及び「単元未満株式の状況」に88株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社ノダ・マネジメント	東京都中央区京橋2-4-15	16,909	19.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-11	8,143	9.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	6,280	7.06
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505223 （常任代理人（株）みずほ銀行決済営業部）	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A （東京都港区港南2-15-1）	4,338	4.87
エスエスピーティーシークライアントオムニバスアカウント （常任代理人 香港上海銀行東京支店カスタディ業務部）	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 （東京都中央区日本橋3-11-1）	2,998	3.37
野田 順弘	東京都大田区	2,881	3.23
野田 みづき	東京都大田区	2,781	3.12
ジェービーモルガンチェースバンク 385632 （常任代理人（株）みずほ銀行決済営業部）	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM （東京都港区港南2-15-1）	2,318	2.60
ジェービーモルガンチェースオツペンハイマージヤスデツクレンディングアカウント （常任代理人（株）三菱UFJ銀行）	6803 S. TUCSON WAY CENTENNIAL, CO 80112, U. S. A （東京都千代田区丸の内2-7-1 決済事業部）	1,787	2.00
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12	1,223	1.37
計	—	49,661	55.83

（注） 1. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社、日本マスタートラスト信託銀行株式会社および資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち信託業務に係る株式数はそれぞれ8,143千株、6,280千株および1,223千株であります。

2. 上記のほか、当社が所有している自己株式10,649千株があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 10,649,400	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 88,939,700	889,397	—
単元未満株式	普通株式 10,900	—	—
発行済株式総数	99,600,000	—	—
総株主の議決権	—	889,397	—

(注) 上記の「単元未満株式」には、当社所有の自己株式が88株含まれております。

② 【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社オービック	東京都中央区 京橋2-4-15	10,649,400	—	10,649,400	10.69
計	—	10,649,400	—	10,649,400	10.69

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	94	926, 140
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	10, 649, 488	—	10, 649, 488	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

株主に対する利益還元については、これを経営の重要課題の一つとして認識しております。強固な経営基盤の確保と、自己資本利益率を10%以上に高めていくように努めるとともに、財務内容の一層の充実を図る一方で、再投資することにより業績を伸ばさせ企業価値を高め、これが株価に適切に反映されることにより株主の皆様のご期待にお応えできるものと考えております。当面は、連結配当性向35%程度の配当を予定しております。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当金）をすることができる。」旨を定款に定めております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額	1株当たり配当額
2018年10月29日 取締役会決議	5, 114百万円	57円50銭
2019年6月27日 定時株主総会決議	6, 893百万円	77円50銭

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、継続的な企業価値の向上のため、経営におけるリスク管理の強化と、透明性の確保が極めて重要であると認識しております。当社は監査役会設置会社であり、取締役会、監査役会を通じて経営リスクに関するモニタリングを行い、内部監査では会計監査および業務監査を実施し、コンプライアンス徹底を図るとともに自浄能力強化に努めております。

② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

イ. 企業統治の体制の概要

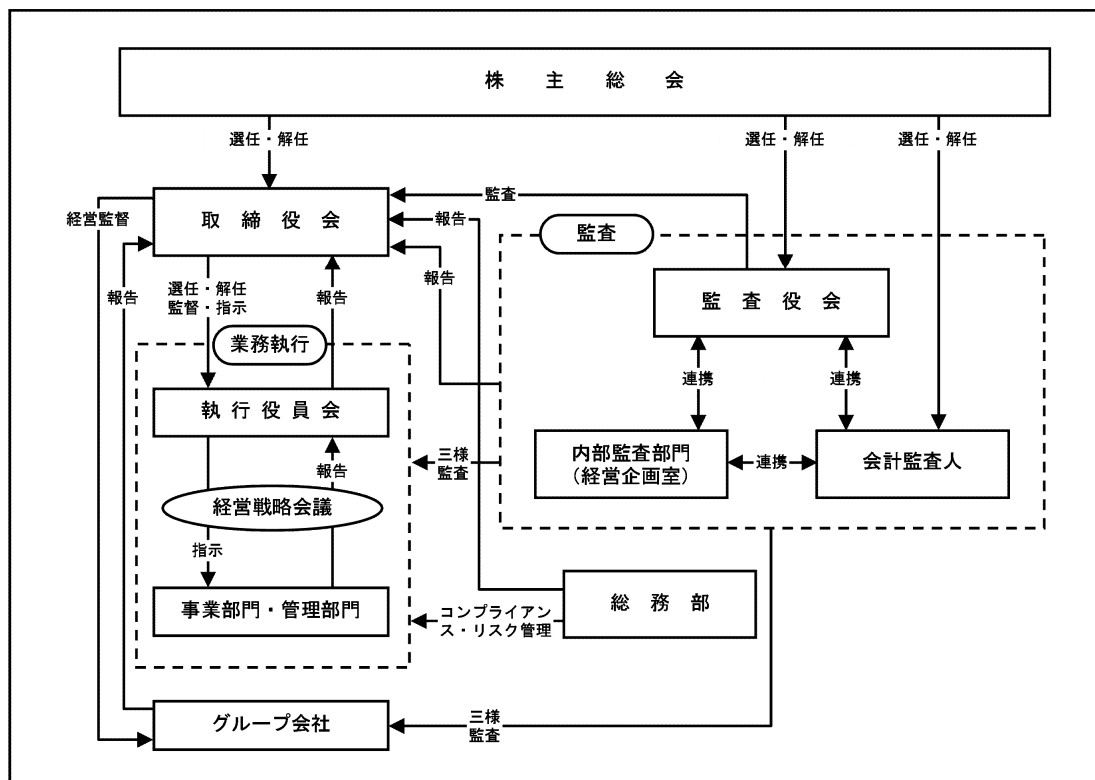
当社は、経営の意思決定機関である取締役会と、経営の監査機能である監査役会及び経営体質をさらに強化するための執行役員制度を採用することで、コーポレート・ガバナンス体制を構築しております。

取締役会は、毎月1回定時取締役会を開催しており重要な事項はすべて付議され、業績の進捗につきましても議論し対策を検討しております。取締役のうち5名は執行役員を兼務しており、取締役以外では、9名の執行役員がおります。執行役員制度を導入することにより、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、経営環境の変化に迅速に対応できる体制となっております。取締役会と同日に開催される経営戦略会議では、各部門からの業績などの現状報告が行われ、議論のうえ具体的な対策等を決定しております。

監査役会は、取締役会をはじめ重要な会議に出席し、適宜、助言・勧告を行っており、客観性及び中立性が確保された経営管理体制が機能していると考えております。また、当社グループにおける業務の適正の確保と密接な連携を図るため、関係会社管理規程にもとづき、当該担当部門長はグループ各社からの定期的に経営状況やリスク等に関する報告を受けるとともに、社内規則や人事等について指示・要請を効率的に行なう体制を構築し、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

なお、取締役会及び監査役会の構成員の氏名は、(2) [役員の状況] ①役員一覧に記載する取締役9名及び監査役3名であります。

(企業統治体制の概要図)



ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社は、継続的な企業価値の向上のため、経営におけるリスク管理の強化と、透明性の確保が極めて重要であると認識しております。当社は、取締役会、監査役会を通じて経営リスクに関するモニタリングを行い、内部監査では会計監査および業務監査を実施し、コンプライアンスの徹底を図るとともに、自浄能力強化に努めております。また、経営企画室を中心とした投資家へのIR活動を活発に行うことにより、公平で透明性のある情報開示にも注力しております。これらにより、コーポレート・ガバナンスの実効性を確保し、当社およびグループ企業各社においても経営管理組織の更なる充実を図ってまいります。

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役を2名選任しておりますが、人的関係などの重要な利害関係はなく、おのおの長年にわたる企業経営の経験や、弁護士として企業法務実務に携わってきた経験を有しておられます。これらの豊富な知識と実績を活かし、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な視点から、経営の監督とチェック機能を果たしていただけるものと期待し、選任しております。また、2名の社外監査役と当社においても人的関係などの重要な利害関係はなく、おのおの弁護士、公認会計士という公的資格を持ち、企業法務や企業会計の実務に携わってきた経験を有しておられます。これらの豊富な知識と実績を当社の監査体制の充実・強化に活かすため、選任しております。

なお、社外取締役及び社外監査役の選任においては、東京証券取引所の規程等に定める独立性に関する諸規定に基づき、様々な分野における豊富な知識と実績を有し、かつ経営陣からの独立性の確保を考慮した人選をしております。

③ 企業統治に関するその他の事項

内部統制システムの整備、リスク管理体制の整備及び子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、内部統制システムの整備に関する基本方針について、下記の項目について決議しております。

1. 取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
5. 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項ならびに当該使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項
7. 当社グループの取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制および報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
9. 反社会的勢力排除に向けた体制
10. 財務報告の信頼性を確保するための体制

決議した基本方針に則り、コンプライアンス体制ならびにリスク管理体制については、定期的にリスクの見直しを行うとともに、総務部が中心となり全社横断的な統括管理を実施し、事業全般に関するコンプライアンスの徹底と、リスクの未然防止および発生時の迅速な対応の確保を図っております。

職務執行体制については、期毎に、各部門における業績目標の設定を行い、その進捗については毎月の経営戦略会議の実施により月次業績の把握、必要に応じて改善策の検討を行い、目標達成の確度を高めております。

監査体制については、当社および当社グループ全体の内部監査、監査役監査、会計監査人監査の三様監査を実施しております。監査の実施にあたって監査役会は、会計監査人および内部監査部門と定期的に意見・情報の交換を行い、監査効率の向上、監査の実効性の確保を図っております。

これらにより、当社および当社グループ全体の内部統制を強化し、ディスクロージャーの信頼性を確保するとともに、業務の有効性および効率性を高め、継続した企業価値の向上を図ってまいります。

④ 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、当社との間で同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

⑤ 取締役の定数及び選任決議

当社の取締役は13名以内とする旨、定款に定めております。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また累積投票によらない旨、定款に定めております。

⑥ 株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。また、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議をもって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨、定款に定めております。

⑦ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

① 役員一覧

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率8.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長	野田 順弘	1938年8月24日生	1957年4月 近畿日本鉄道株式会社百貨店部(現株式会社近鉄百貨店)入社 1962年9月 同社退社 1962年10月 東京オフィスマシン株式会社入社 1967年9月 同社退社 1968年4月 当社設立 代表取締役社長 2003年4月 当社代表取締役会長 2006年2月 当社代表取締役会長兼社長 2013年4月 当社代表取締役会長(現任)	(注) 4	2,881
代表取締役社長	橘 昇一	1961年4月26日生	1985年4月 当社入社 2000年4月 当社大阪本社ビジネスソリューション営業1部長 2003年2月 当社東京本社ビジネスソリューション営業部長 2003年8月 当社横浜支店長 2004年6月 当社取締役 2005年4月 当社常務取締役 当社東京本社ソリューション統括副本部長 2006年4月 当社東京本社ソリューション営業統括兼推進統括部長 2007年4月 当社専務取締役 2008年4月 当社取締役副社長 2013年4月 当社代表取締役社長(現任)	(注) 4	30
常務取締役 人事・総務統括本部長	川西 篤	1958年11月29日生	1982年4月 当社入社 2000年4月 当社東京本社総務部長 2002年4月 当社総務統括部長 2003年6月 当社取締役 当社総務統括本部長 2005年4月 当社常務取締役(現任) 2008年4月 当社人事・総務統括本部長(現任)	(注) 4	34
取締役 相談役	野田 みづき	1934年8月27日生	1953年4月 バイロット万年筆株式会社(現株式会社パイロットコーポレーション)入社 1965年3月 同社退社 1968年4月 当社設立 取締役 1970年4月 当社常務取締役 1995年6月 当社取締役副社長 1998年6月 当社代表取締役副社長 2003年4月 当社取締役副会長 2009年6月 当社取締役相談役(現任)	(注) 4	2,781
取締役 ソリューション事業本部長兼 東京本社第3ソリューション 事業部長兼東京本社第4ソ リューション事業部長	藤本 隆夫	1971年4月7日生	1994年4月 当社入社 2009年4月 当社東京本社産業ソリューション統括4部ソリューション営業部長 2014年4月 当社東京本社産業ソリューション統括1部営業統括長 2017年4月 当社東京本社第2ソリューション事業部長兼東京本社第3ソリューション事業部長(現任) 2017年6月 当社取締役(現任) 2018年4月 当社東京本社ソリューション事業本部長兼東京本社第4ソリューション事業部長(現任) 2019年4月 当社ソリューション事業本部長(現任)	(注) 4	1

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 大阪本社統括	井田 秀史	1961年4月12日生	1984年4月 当社入社 2004年1月 当社福岡支店長 2006年4月 当社大阪本社ソリューション営業部長 2013年4月 当社大阪本社ソリューション営業統括 長 2014年4月 当社大阪本社統括兼大阪本社産業ソ リューション統括長 (現任) 2014年6月 当社取締役 (現任)	(注) 4	10
取締役 ソリューション推進事業本部 長	上野 剛光	1960年10月9日生	1984年4月 当社入社 2004年4月 当社東京本社マーケティング推進部長 2010年4月 当社東京本社ソリューション推進本部 マーケティング推進統括部企画本部部 長 2011年4月 当社東京本社ソリューション推進本部 マーケティング推進統括部マーケティ ング本部部長 2013年6月 当社ソリューション推進統括本部マー ケティング推進本部長 2017年4月 当社ソリューション推進事業本部マー ケティング推進本部長兼プロジェクト 推進室長 2017年6月 当社取締役 (現任) 2018年4月 当社ソリューション推進事業本部長 (現任)	(注) 4	14
取締役	五味 康昌	1943年2月8日生	1966年4月 株式会社三菱銀行 (現 株式会社三菱 UFJ銀行) 入行 1993年6月 同行取締役 米州本部米州企画部長 (特命担当: パンクオブカリフォルニ ア会長兼頭取) 1997年5月 同行常務取締役 業務企画部長 2002年6月 同行専務取締役 法人営業部門長 2003年5月 同行副頭取 法人営業部門長 2004年6月 三菱証券株式会社 (現 三菱UFJ証 券ホールディングス株式会社) 取締役 会長 2009年5月 三菱UFJ証券株式会社 (現 三菱U FJ証券ホールディングス株式会社) 相談役 2009年6月 株式会社山形銀行 社外監査役 2010年6月 讀賣テレビ放送株式会社 社外取締役 (現任) 2013年2月 三菱UFJ証券ホールディングス株式 会社 特別顧問 2015年6月 当社社外取締役 (現任) 2016年6月 株式会社山形銀行 社外取締役 (監査 等委員) (現任) 2019年4月 三菱UFJ証券ホールディングス株式 会社 名誉顧問 (現任)	(注) 4	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	江尻 隆	1942年5月16日生	1969年4月 弁護士登録（現在 第二東京弁護士会所属） 1977年11月 榊田江尻法律事務所（現 弁護士法人西村あさひ法律事務所）パートナー 1986年9月 日本弁護士連合会国際交流委員会副委員長 1998年11月 株式会社有線ブロードバンドネットワークス（現 株式会社USEN）監査役 2003年6月 株式会社あおぞら銀行 監査役 2004年6月 安藤建設株式会社（現 株式会社安藤・間）監査役 2006年6月 カゴメ株式会社 監査役 2010年5月 三菱UFJ証券ホールディングス株式会社 監査役 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 監査役 ディップ株式会社 社外監査役（現任） 2012年8月 弁護士法人西村あさひ法律事務所 社員 2017年3月 株式会社ALBERT 社外取締役（現任） 2017年6月 当社社外取締役（現任） 2017年8月 名取法律事務所 シニアパートナー（現任）	(注) 4	—
監査役	小屋町 朗	1958年3月4日生	1981年4月 当社入社 2002年4月 当社名古屋支店ソリューションシステム部長 2004年5月 当社北関東支店長 2007年4月 当社東京本社推進統括部システム企画部長 2010年4月 当社東京本社ソリューション推進本部マーケティング推進統括部業績管理本部部長 2017年4月 当社ソリューション推進事業本部推進管理本部業績管理室長 2017年6月 当社監査役（現任）	(注) 5	4
監査役	坂和 章平	1949年1月26日生	1974年4月 弁護士登録（大阪弁護士会所属）（現任） 1979年7月 坂和章平法律事務所（現坂和総合法律事務所）開設（現任） 2006年6月 当社社外監査役（現任）	(注) 5	3
監査役	長尾 謙太	1958年12月25日生	1986年10月 監査法人中央会計事務所入所 1990年8月 公認会計士登録（現任） 1995年12月 同監査法人退所 1996年2月 長尾公認会計士事務所開設（現任） 1997年7月 税理士登録（現任） 2002年6月 当社社外監査役（現任） 2004年12月 株式会社ランドビジネス 社外監査役（現任） 2011年8月 税理士法人グローイング 代表社員（現任）	(注) 5	—
			計		5,759

- (注) 1. 取締役五味康昌及び江尻隆は社外取締役であります。
 2. 監査役坂和章平及び長尾謙太は社外監査役であります。
 3. 取締役相談役野田みづきは代表取締役会長野田順弘の配偶者であります。
 4. 2019年6月27日開催の第52回定時株主総会の終結の時から1年間
 5. 2017年6月29日開催の第50回定時株主総会の終結の時から4年間

6. 当社では、より一層の経営のスピードアップと責任体制の明確化を図り、経営体質を強化することを目的として執行役員制度を導入いたしております。代表取締役会長、取締役相談役及び社外取締役を除く取締役5名は執行役員を兼務しております。また取締役以外の執行役員は9名で、以下の通りであります。

氏名	役職名
梶浦 智之	執行役員 東京本社第1ソリューション事業部長兼東京本社第2ソリューション事業部長
市川 昭彦	執行役員 横浜支店長
村田 浩之	執行役員 名古屋支店長
小林 達也	執行役員 福岡支店長
三浦 雅則	執行役員 ソリューション推進事業本部 マーケティング推進本部長
浜中 俊宏	執行役員 マーケティング推進本部 部長
久保田弘之	執行役員 業務本部長
松下 祐二	執行役員 経営企画室長兼IR・広報グループ長
井坂 眞持	執行役員 経理本部長

② 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役の五味康昌氏は、長年にわたり銀行および証券会社の業務や経営に携わり、経営に対する豊富な知識と実績を有しております。これらの豊富な知識と実績を活かし、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な視点から、経営の監督とチェック機能を果たしていただけるものと期待し、社外取締役として選任しております。なお、同氏と当社において、人的関係、資本的関係、取引関係、その他の重要な利害関係はありません。

社外取締役の江尻隆氏は、長年にわたり弁護士として企業法務の実務に携わり、法律専門家としての豊富な知識と実績を有しております。これらの豊富な知識と実績を活かし、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な視点から、経営の監督とチェック機能を果たしていただけるものと期待し、社外取締役として選任しております。なお、同氏と当社において、人的関係、資本的関係、取引関係、その他の重要な利害関係はありません。また、同氏は上記の理由により、社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。

社外監査役の坂和章平氏は、長年にわたり弁護士として企業法務の実務に携わり、法律専門家としての豊富な知識と実績を有しております。これらの豊富な知識と実績を、当社の監査体制の充実・強化に活かすため、社外監査役として選任しております。なお、同氏と当社において、人的関係、資本的関係、取引関係、その他の重要な利害関係はありません。また、同氏は上記の理由により、社外監査役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。

社外監査役の長尾謙太氏は、長年にわたり公認会計士および税理士として企業会計・税務の実務に携わり、会計・税務の専門家として豊富な知識と実績を有しております。これらの豊富な知識と実績を、当社の監査体制の充実・強化に活かすため、社外監査役として選任しております。なお、同氏と当社において、人的関係、資本的関係、取引関係、その他の重要な利害関係はありません。

社外取締役及び社外監査役の選任においては、東京証券取引所の規程等に定める独立性に関する諸規定に基づき、様々な分野における豊富な経験や見識を有し、かつ経営陣からの独立性の確保を考慮した人選をしております。

③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は、取締役会に出席し、適宜、助言・勧告を行っております。また、取締役会と同日に開催される経営戦略会議に出席し、必要な社内の情報収集を行うと共に、適宜発言を行っております。社外取締役は、重要案件についてはその担当取締役より事前に説明を受け、当社の経営課題を把握し、取締役会において意見表明をしております。社外監査役は、監査役会において内部監査の監査結果について検討を行い、必要に応じて再調査を求めています。また会計監査人及び内部監査部門とも定期的に意見交換を行う場を設け、相互連携を図っております。内部統制に係る監査は、経営企画室を中心に経理部と連携して実施しておりますが、その監査結果を定期的に取締役会及び監査役会に報告し、状況を共有しております。

(3) 【監査の状況】

① 監査役監査の状況

監査役会については、社外監査役2名を含めた3名で組織し、経営の監視能力を強化するものであり、日常的な監査を行なうとともに、取締役会をはじめ重要な会議に出席し、適宜、助言・勧告を行なっており、客観性及び中立性の確保に努め円滑に機能しております。

② 内部監査の状況

内部監査につきましては、経営企画室を中心に経理部や監査役会と連携し、6～7名の体制で会計監査および業務監査を実施しております。会計監査においては会計基準・社内規程の遵守における調査を行ない、業務監査においては経営に係わるタイムリーな事項を重点監査項目として設定し、社会通念や商取引慣行などのビジネスに伴うリスクの調査を行なうことで業務上の自浄能力の強化を図っております。内部監査の結果は取締役会、監査役会、ならびに会計監査人に報告され、指摘事項については被監査部門への説明を行ない、速やかに対策を検討しコンプライアンスの徹底や業務の改善に反映されており、経営上重要な役割を果たしております。

③ 会計監査の状況

a. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

野水 善之
中井 清二

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の監査業務に携わる補助者は、公認会計士5名、その他13名であり、合計18名が携わっております。

d. 会計監査人の選定方針と理由

会計監査人の選任に際しては、監査役会において会計監査人の選定基準を設けて、会計監査人が会計監査を適正に行うために必要な品質管理の基準を遵守しているか確認しています。また、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、会計監査人が法定の解任事由に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

なお、当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人は、会計監査人に求められる独立性や法令遵守などの品質管理体制を有し、当社の会計監査が適正に行われることを確保する体制を備えているものと評価しております。

e. 監査役及び監査役会による会計監査人の評価

当社の監査役及び監査役会は、会計監査人に対して評価を行っております。主に会計監査人の品質管理、監査チームの独立性、監査報酬等、監査役等とのコミュニケーション、経営者等との関係及びグループ監査の項目について個別に確認をした上で、総合的に評価をしております。

④ 監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56) d (f) i から iii の規定に経過措置を適用しております。

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明に基づく報酬 (百万円)	非監査証明に基づく報酬 (百万円)	監査証明に基づく報酬 (百万円)	非監査証明に基づく報酬 (百万円)
提出会社	27	3	29	25
連結子会社	—	—	—	—
計	27	3	29	25

当社における非監査業務の内容ですが、前連結会計年度においては I F R S 対応システムの開発における会計又は財務報告上の論点に関する助言についての対価を支払っております。当連結会計年度においては I F R S 対応システムの開発における会計、財務報告上の論点に関する助言、またクラウドサービスに対する保証業務についての対価を支払っております。

b. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c. 監査報酬の決定方針

監査報酬は、監査日数、会社の規模及び業務の特性等の要素を勘案して適切に決定しております。

d. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社監査役会は、当該事業年度の監査計画に係る監査日数・配員計画等から見積もられた報酬額に関する会計監査人の説明をもとに、前事業年度の実績の評価を踏まえ算定根拠等について確認し、その内容は妥当であると判断したため、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

- ① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項
 役員の報酬等については、持続的な企業価値向上を図るための報酬として位置づけております。

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議内容は以下の通りです。

- ・2019年6月27日開催の第52回定時株主総会において、取締役の報酬限度額は年額8億円以内（うち社外取締役分4千万円以内）（使用人分給与は含まない）とし、固定報酬である「基本報酬」については年額6億円以内（うち社外取締役分4千万円以内）、業績連動報酬としての「賞与」については当社単体の前事業年度当期純利益の0.5%、かつ2億円以内（社外取締役は支給しない）と決議いただいております。
- ・2000年6月29日開催の第33回定時株主総会において、監査役の報酬限度額は年額30百万円以内と決議いただいております。

取締役報酬は「基本報酬（固定報酬）」および「賞与（業績連動報酬）」（社外取締役は支給しない）により構成されております。業績連動報酬としての「賞与」については、直接的に関与する業務執行の最終的な利益である当社単体の前事業年度当期純利益を業績指標とし、取締役の業績向上への意欲を高めております。なお、当社単体の前事業年度（2018年3月期）の当期純利益は23,680百万円でありました。報酬額については、株主総会で決議された限度額以内において、従来からの職位別の報酬をベースに会社業績と各役員の業務執行状況などを勘案したうえで、役付取締役にて原案を作成し、独立社外取締役の助言等を踏まえながら、取締役会にて決定しております。

監査役報酬は「基本報酬（固定報酬）」のみとしております。報酬額については、株主総会で決議された限度額以内において、監査役の協議にて決定を行っております。

- ② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	561	444	100	16	9
監査役 (社外監査役を除く。)	12	12	—	—	1
社外役員	42	42	—	—	4

- ③ 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	報酬等の総額 (百万円)	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の額 (百万円)		
				基本報酬	賞与	退職慰労金
野田 順弘	127	取締役	提出会社	120	7	—
橘 昇一	276	取締役	提出会社	204	60	12

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、政策保有株式について、営業政策上の必要性や株式保有の合理性などを総合的に勘案し、中長期的な企業価値の向上に資すると判断した場合を除き、保有しないことを基本方針としております。なお、当連結会計年度末（2019年3月31日）現在において、政策保有株式の保有はありません。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

該当事項はありません。

③ 保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (百万円)
非上場株式	8	296	9	248
非上場株式以外の株式	33	16,935	33	18,713

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額 (百万円)	売却損益の 合計額 (百万円)	評価損益の 合計額 (百万円)
非上場株式	9	18	— (—)
非上場株式以外の株式	535	△116	4,272 (—)

(注) 「評価損益の合計額」の()は外書で、当事業年度の減損処理額であります。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1976年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2018年4月1日から2019年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	109,458	119,972
受取手形及び売掛金	8,795	9,626
商品及び製品	151	142
仕掛品	299	210
原材料及び貯蔵品	20	40
その他	862	1,135
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	119,585	131,125
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,036	6,134
減価償却累計額	△3,041	△3,121
建物及び構築物（純額）	2,994	3,012
土地	27,849	27,849
建設仮勘定	6,130	15,788
その他	2,597	3,130
減価償却累計額	△1,756	△2,032
その他（純額）	840	1,097
有形固定資産合計	37,814	47,747
無形固定資産		
その他	112	106
無形固定資産合計	112	106
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 59,871	※1 61,663
会員権	214	207
敷金及び保証金	1,080	831
繰延税金資産	2,355	2,955
その他	229	275
貸倒引当金	△2	△4
投資その他の資産合計	63,749	65,929
固定資産合計	101,675	113,784
資産合計	221,260	244,909

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,535	4,029
未払法人税等	5,888	7,188
前受収益	1,123	1,166
賞与引当金	2,372	2,372
役員賞与引当金	91	100
その他	3,661	4,124
流動負債合計	16,671	18,981
固定負債		
退職給付に係る負債	6,003	6,290
資産除去債務	170	187
再評価に係る繰延税金負債	1	1
その他	1,018	972
固定負債合計	7,193	7,451
負債合計	23,865	26,432
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,178	19,178
資本剰余金	19,530	19,530
利益剰余金	175,078	196,183
自己株式	△22,138	△22,139
株主資本合計	191,649	212,752
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,406	7,553
土地再評価差額金	※2 △1,705	※2 △1,705
退職給付に係る調整累計額	44	△124
その他の包括利益累計額合計	5,745	5,723
純資産合計	197,394	218,476
負債純資産合計	221,260	244,909

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高	66,814	74,163
売上原価	※2 22,296	※2 23,221
売上総利益	44,517	50,941
販売費及び一般管理費	※1 12,192	※1 13,002
営業利益	32,325	37,939
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	442	545
投資有価証券売却益	19	61
持分法による投資利益	2,819	3,564
受取賃貸料	1	2
その他	70	92
営業外収益合計	3,357	4,270
営業外費用		
投資有価証券売却損	—	159
賃貸費用	108	120
その他	2	1
営業外費用合計	111	282
経常利益	35,570	41,927
特別利益		
償却債権取立益	888	2,060
その他	0	0
特別利益合計	888	2,060
特別損失		
固定資産除却損	2	1
投資有価証券評価損	130	—
その他	0	0
特別損失合計	133	2
税金等調整前当期純利益	36,325	43,985
法人税、住民税及び事業税	10,159	11,888
法人税等調整額	△102	△126
法人税等合計	10,057	11,762
当期純利益	26,268	32,223
非支配株主に帰属する当期純利益	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	26,268	32,223

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
当期純利益	26,268	32,223
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,066	△973
退職給付に係る調整額	35	△100
持分法適用会社に対する持分相当額	△26	1,051
その他の包括利益合計	※ 2,076	※ △22
包括利益	28,344	32,201
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	28,344	32,201
非支配株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	19,178	19,530	157,260	△22,137	173,831
当期変動額					
剰余金の配当			△8,450		△8,450
親会社株主に帰属する当期純利益			26,268		26,268
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	17,818	△0	17,817
当期末残高	19,178	19,530	175,078	△22,138	191,649

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	5,373	△1,705	1	3,669	177,500
当期変動額					
剰余金の配当					△8,450
親会社株主に帰属する当期純利益					26,268
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,033		42	2,076	2,076
当期変動額合計	2,033	—	42	2,076	19,894
当期末残高	7,406	△1,705	44	5,745	197,394

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	19,178	19,530	175,078	△22,138	191,649
当期変動額					
剰余金の配当			△11,118		△11,118
親会社株主に帰属する当期純利益			32,223		32,223
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	－	21,104	△0	21,103
当期末残高	19,178	19,530	196,183	△22,139	212,752

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	7,406	△1,705	44	5,745	197,394
当期変動額					
剰余金の配当					△11,118
親会社株主に帰属する当期純利益					32,223
自己株式の取得					△0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	146		△168	△22	△22
当期変動額合計	146	－	△168	△22	21,081
当期末残高	7,553	△1,705	△124	5,723	218,476

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	36,325	43,985
減価償却費	504	599
持分法による投資損益 (△は益)	△2,819	△3,564
投資有価証券売却損益 (△は益)	△19	98
投資有価証券評価損益 (△は益)	130	—
償却債権取立益	△888	△2,060
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	24	9
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	2
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	146	142
受取利息及び受取配当金	△446	△549
固定資産除却損	2	1
会員権評価損	0	0
売上債権の増減額 (△は増加)	724	△830
たな卸資産の増減額 (△は増加)	201	77
仕入債務の増減額 (△は減少)	△120	494
その他	250	440
小計	34,015	38,847
利息及び配当金の受取額	1,474	1,642
法人税等の支払額	△9,382	△10,646
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,107	29,843
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,002	△10,509
有形固定資産の売却による収入	0	0
無形固定資産の取得による支出	△58	△27
投資有価証券の取得による支出	△1	△151
投資有価証券の売却による収入	27	180
償却債権の回収による収入	888	2,060
敷金及び保証金の回収による収入	—	248
敷金及び保証金の差入による支出	△274	△2
その他	100	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,320	△8,209
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△8,450	△11,118
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,450	△11,119
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	11,336	10,514
現金及び現金同等物の期首残高	98,121	109,458
現金及び現金同等物の期末残高	※ 109,458	※ 119,972

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

以下の子会社1社を連結の範囲に含めております。

連結子会社の名称

(株) オービックオフィスオートメーション

なお、欧比科(上海)軟件有限公司は、連結の範囲及び持分法の適用範囲から除外しております。当該子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純利益及び利益剰余金等はいずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼさないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

以下の関連会社3社を持分法の適用範囲に含めております。

関連会社の名称

(株) オービーシステム

(株) オービックビジネスコンサルタント

(株) 新潟オービックシステムエンジニアリング

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、すべて連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ たな卸資産

商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品

主として個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産

定率法

(ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。)

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

その他 4～30年

ロ 無形固定資産

ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率に基づき、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

ハ 役員賞与引当金

当社及び連結子会社は役員賞与の支給に備えて、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、翌連結会計年度に一括して費用処理しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

ロ その他の工事

工事完成基準

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

イ 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、あります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」1,083百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」2,355百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(追加情報)

(役員退職慰労制度の廃止)

当社は、2018年6月28日開催の第51回定時株主総会において、役員報酬制度改定の一環として、役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給(支給の時期は各役員の退任時)を決議いたしました。これに伴い、当社の役員退職慰労引当金全額を取り崩し、打ち切り支給に伴う未払額を固定負債のその他に含めて表示しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 関連会社に対するものが次の通り含まれております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	40,909百万円	44,432百万円

※2 「土地の再評価に関する法律」(1998年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(2001年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行っております。当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金資産」又は「再評価に係る繰延税金負債」に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法・・・「土地の再評価に関する法律施行令」(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(1991年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行って算定する方法により算出しております。

再評価を行った年月日・・・2002年3月31日

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料及び手当	5,466百万円	5,615百万円
賞与引当金繰入額	972	962
役員賞与引当金繰入額	91	100
退職給付費用	192	165
賃借料	603	599
減価償却費	110	112
広告宣伝費	1,098	1,172

※2 当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	1,330百万円	1,250百万円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	2,978百万円	△1,285百万円
組替調整額	—	△116
税効果調整前	2,978	△1,402
税効果額	△912	429
その他有価証券評価差額金	2,066	△973
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	48	△95
組替調整額	2	△48
税効果調整前	51	△144
税効果額	△15	44
退職給付に係る調整額	35	△100
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△22	1,061
組替調整額	△3	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	△26	1,051
その他の包括利益合計	2,076	△22

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式数				
普通株式	99,600,000	—	—	99,600,000
自己株式数				
普通株式(注1)	10,649,333	61	—	10,649,394

(注1) 普通株式の自己株式数の増加61株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2017年6月29日 定時株主総会	普通株式	4,225	47円50銭	2017年3月31日	2017年6月30日
2017年10月30日 取締役会	普通株式	4,225	47円50銭	2017年9月30日	2017年11月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	6,004	利益剰余金	67円50銭	2018年3月31日	2018年6月29日

(注) 2018年6月28日定時株主総会決議による1株当たり配当額には、創立50周年記念配当10円を含んでおります。

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
発行済株式数				
普通株式	99,600,000	—	—	99,600,000
自己株式数				
普通株式（注1）	10,649,394	94	—	10,649,488

（注1）普通株式の自己株式数の増加94株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	6,004	67円50銭	2018年3月31日	2018年6月29日
2018年10月29日 取締役会	普通株式	5,114	57円50銭	2018年9月30日	2018年11月22日

（注）2018年6月28日定時株主総会決議による1株当たり配当額には、創立50周年記念配当10円を含んでおります。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	6,893	利益剰余金	77円50銭	2019年3月31日	2019年6月28日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）	当連結会計年度 （自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
現金及び預金勘定	109,458百万円	119,972百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	109,458	119,972

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループにおける取組方針は、基本的に投資対象の流動性、信用性並びに元本の安全性を勘案し、企業本来の目的を逸脱しない範囲に限定しております。またハイリスクを伴うデリバティブ取引、信用取引、債券先物取引及び商品先物取引等を行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

現金及び預金は、主に銀行の預貯金または安定性のある金融商品に限定しております。

基本的には3ヶ月以内の短期を原則とし、流動性の確保と元本の安全性を重視しております。

営業債権である受取手形及び売掛金は、取引先の信用リスクにさらされています。当該リスクに関しては、取引先ごとに与信管理を徹底し、回収期日や残高を定期的に管理することで、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券への投資は、資金の内、運転資金を除く余剰資金の運用に対してのみであり、基本的に流動性の確保と元本の安全性を重視しております。具体的には、上場株式等を中心とし、投資枠や保有上限枠を設定し、過度な投資を行わないよう規制しております。また投資した金融商品については、運用体制や管理基準を明確化し、モニタリングと情報収集することにより定期的に市場価格の変動リスクや時価及び発行体の財務状況等を分析・把握し、その情報を機関で共有することにより回収可能性の確保や減損懸念の軽減を図っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品をご参照ください。)

前連結会計年度(2018年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	109,458	109,458	—
(2) 受取手形及び売掛金	8,795		
貸倒引当金	△1		
	8,793	8,793	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	18,713	18,713	—
関連会社株式	39,780	92,543	52,763
資産計	176,745	229,509	52,763
(1) 買掛金	3,535	3,535	—
負債計	3,535	3,535	—

当連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	119,972	119,972	—
(2) 受取手形及び売掛金	9,626		
貸倒引当金	△1		
	9,624	9,624	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	16,935	16,935	—
関連会社株式	43,224	123,527	80,303
資産計	189,756	270,059	80,303
(1) 買掛金	4,029	4,029	—
負債計	4,029	4,029	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 買掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非上場株式	1,377	1,504

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（2018年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	109,458	—	—	—
受取手形及び売掛金	8,795	—	—	—
合計	118,253	—	—	—

当連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	119,972	—	—	—
受取手形及び売掛金	9,626	—	—	—
合計	129,598	—	—	—

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (2018年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	17,973	12,102	5,871
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	17,973	12,102	5,871
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	739	935	△196
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	739	935	△196
合計		18,713	13,038	5,674

当連結会計年度 (2019年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	16,105	11,708	4,397
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	16,105	11,708	4,397
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	829	954	△125
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	829	954	△125
合計		16,935	12,663	4,272

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	27	19	—

当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	売却額（百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
株式	180	61	159

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給いたします。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	5,908百万円	6,003百万円
勤務費用	448	437
利息費用	22	22
数理計算上の差異の発生額	△48	95
退職給付の支払額	△326	△268
退職給付債務の期末残高	6,003	6,290

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債と退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	6,003百万円	6,290百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	6,003	6,290
退職給付に係る負債	6,003	6,290
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	6,003	6,290

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	448百万円	437百万円
利息費用	22	22
数理計算上の差異の費用処理額	2	△48
確定給付制度に係る退職給付費用	472	411

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	51百万円	△144百万円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識数理計算上の差異	48百万円	△95百万円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.4%	0.3%
予想昇給率	1.3%	1.2%

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）及び当連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	337百万円	402百万円
賞与引当金	726	726
退職給付に係る負債	1,838	1,926
会員権	179	179
たな卸資産に係る未実現利益	—	0
固定資産に係る未実現利益	7	16
投資有価証券評価損	2,638	2,007
貸倒損失	21	21
その他	356	363
繰延税金資産小計	6,105	5,643
評価性引当額	△2,012	△1,379
繰延税金資産合計	4,093	4,263
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,737	1,308
繰延税金負債合計	1,737	1,308
繰延税金資産純額	2,355	2,955
再評価に係る繰延税金資産		
土地再評価差額金	523	523
評価性引当額	△523	△523
再評価に係る繰延税金資産合計	—	—
再評価に係る繰延税金負債		
土地再評価差額金	1	1
再評価に係る繰延税金負債合計	1	1
再評価に係る繰延税金負債の純額	1	1

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
評価性引当額の増減	△0.6	△1.4
交際費の損金不算入額	0.1	0.2
持分法による投資利益	△2.4	△2.5
その他	△0.3	△0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.7	26.8

(賃貸等不動産関係)

当社では、大阪府その他の地域において、賃貸利用している不動産及び遊休不動産を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は△107百万円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上）であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は△117百万円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	15,178	15,807
期中増減額	628	—
期末残高	15,807	15,807
期末時価	26,308	29,943

- (注) 1. 期末の時価は、主要な物件については、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づきます。ただし、直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合は、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。また、その他の重要性の乏しいものについては、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標に基づく金額を採用しております。
- (注) 2. 当社の所有している大阪府の土地に建物の建設をしております。それに伴い、当連結会計年度末の連結貸借対照表の有形固定資産に建設仮勘定15,788百万円（前連結会計年度6,130百万円）がありますが、現在建設中であり時価を把握することが極めて困難であるため、上表には含めておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社の事業は主に企業情報システムのシステムインテグレーション事業、システムサポート事業、オフィスオートメーション事業及び業務用パッケージソフト事業を行っております。

なお、業務用パッケージソフト事業は持分法適用の関連会社で行っているため報告セグメントには含まれておりません。

また、報告セグメントの主要品目は以下の表のとおりです。

報告セグメント	主要品目
システムインテグレーション	顧客に対する総合情報システム
システムサポート	ハードウェア保守 システム運用サポート
オフィスオートメーション	OA機器一般及びコンピュータサプライ用品

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価額に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

(単位：百万円)

	システムインテグレーション	システムサポート	オフィスオートメーション	計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売上高	35,291	23,424	8,098	66,814	—	66,814
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	—	280	284	△284	—
計	35,295	23,424	8,379	67,099	△284	66,814
セグメント利益	16,841	14,323	1,159	32,325	—	32,325
セグメント資産	21,718	11,673	10,107	43,499	177,760	221,260
その他の項目						
減価償却費	295	196	12	504	—	504
持分法適用会社への投資額	1,129	—	—	1,129	39,780	40,909
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	317	210	36	563	6,556	7,119

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の△284百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

(2) セグメント資産の177,760百万円並びに有形固定資産及び無形固定資産の増加額の6,556百万円は全社資産であり、その内容は当社での余資運用資金（現金・預金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券、会員権及び長期預託金）、本社用地、及び繰延税金資産であります。

(3) 持分法適用会社への投資額の39,780百万円は、報告セグメントに含まれておりません。

2. セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と一致しております。また、セグメント資産は連結貸借対照表の総資産額と一致しております。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

（単位：百万円）

	システムインテ グレーション	システムサポ ート	オフィスオート メーション	計	調整額 (注) 1	連結 財務諸表 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への売 上高	38,005	27,057	9,100	74,163	—	74,163
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5	—	438	443	△443	—
計	38,010	27,057	9,538	74,606	△443	74,163
セグメント利益	19,024	17,364	1,550	37,939	—	37,939
セグメント資産	18,343	10,027	11,523	39,894	205,014	244,909
その他の項目						
減価償却費	342	244	12	599	—	599
持分法適用会社 への投資額	1,207	—	—	1,207	43,224	44,432
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	505	359	8	873	9,658	10,532

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

(1) 売上高の△443百万円は、セグメント間取引の消去の額であります。

(2) セグメント資産の205,014百万円並びに有形固定資産及び無形固定資産の増加額の9,658百万円は全社資産であり、その内容は当社での余資運用資金（現金・預金及び有価証券）、長期投資資金（投資有価証券、会員権及び長期預託金）、本社用地、及び繰延税金資産であります。

(3) 持分法適用会社への投資額の43,224百万円は、報告セグメントに含まれておりません。

2. セグメント利益は連結損益計算書の営業利益と一致しております。また、セグメント資産は連結貸借対照表の総資産額と一致しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため省略いたします。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

本邦以外の外部顧客への売上高がないため該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

本邦以外に所在している有形固定資産がないため該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

単一の外部顧客への売上高が、連結損益計算書の売上高の10%を超えないため記載しておりません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）及び当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等
前連結会計年度（自2017年4月1日 至2018年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等並びに当該会社等の子会社	(株) 茂原カントリークラブ	千葉県茂原市	20	ゴルフ場運営	(被所有) 直接 -	役員の兼任及びゴルフ場の利用	ゴルフ場の利用 (注1)	16	未払金	0
	(株) パロックス	東京都中央区	20	輸入食品の販売	(被所有) 直接 -	役員の兼任及び商品購入	商品購入 (注1)	11	未払金	0

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

利用料については通常規定に基づいた価格であります。

商品の購入は独立第三者取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

当連結会計年度（自2018年4月1日 至2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等並びに当該会社等の子会社	(株) 茂原カントリークラブ	千葉県茂原市	20	ゴルフ場運営	(被所有) 直接 -	役員の兼任及びゴルフ場の利用	ゴルフ場の利用等 (注1)	19	未払金	0
	(株) パロックス	東京都中央区	20	輸入食品の販売	(被所有) 直接 -	役員の兼任及び商品購入	商品購入 (注1)	24	未払金	0

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

利用料等については通常規定に基づいた価格であります。

商品の購入は独立第三者取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

前連結会計年度及び当連結会計年度において、重要な関連会社は（株）オービックビジネスコンサルタントであり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	95,979百万円	108,300百万円
固定資産合計	27,940	31,562
流動負債合計	14,954	18,445
固定負債合計	3,701	5,979
純資産合計	105,264	115,438
営業利益	9,737	13,113
税引前当期純利益金額	11,168	14,504
当期純利益金額	8,172	10,070

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	2,219.15円	2,456.16円
1株当たり当期純利益金額	295.32円	362.26円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	26,268	32,223
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純 利益金額(百万円)	26,268	32,223
期中平均株式数(株)	88,950,655	88,950,576

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	197,394	218,476
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	197,394	218,476
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数(株)	88,950,606	88,950,512

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	17,660	36,169	55,241	74,163
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	11,072	21,596	33,904	43,985
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(百万 円)	8,223	15,751	24,939	32,223
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	92.44	177.08	280.38	362.26

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	92.44	84.63	103.30	81.89

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	101,229	110,381
受取手形	69	79
売掛金	※ 7,458	※ 8,244
原材料及び貯蔵品	20	43
仕掛品	299	210
その他	※ 736	※ 989
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	109,812	119,948
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,954	2,994
土地	27,849	27,849
建設仮勘定	6,130	15,788
その他	846	1,115
有形固定資産合計	37,780	47,747
無形固定資産		
その他	105	101
無形固定資産合計	105	101
投資その他の資産		
投資有価証券	18,931	17,208
関係会社株式	8,504	8,504
会員権	205	198
敷金及び保証金	1,056	807
繰延税金資産	2,150	2,685
その他	229	276
貸倒引当金	△2	△3
投資その他の資産合計	31,074	29,676
固定資産合計	68,960	77,525
資産合計	178,773	197,473

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	※ 1,430	※ 1,691
未払法人税等	5,654	6,862
前受収益	1,027	1,064
賞与引当金	2,180	2,180
役員賞与引当金	91	100
その他	※ 3,499	※ 3,909
流動負債合計	13,883	15,808
固定負債		
退職給付引当金	5,672	5,804
資産除去債務	151	168
再評価に係る繰延税金負債	1	1
その他	943	957
固定負債合計	6,768	6,931
負債合計	20,652	22,739
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,178	19,178
資本剰余金		
資本準備金	19,413	19,413
その他資本剰余金	116	116
資本剰余金合計	19,530	19,530
利益剰余金		
利益準備金	461	461
その他利益剰余金		
別途積立金	111,000	124,500
繰越利益剰余金	27,870	31,952
利益剰余金合計	139,332	156,914
自己株式	△22,138	△22,139
株主資本合計	155,902	173,483
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,923	2,955
土地再評価差額金	△1,705	△1,705
評価・換算差額等合計	2,217	1,249
純資産合計	158,120	174,733
負債純資産合計	178,773	197,473

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
売上高		
システムインテグレーション売上高	35,295	38,010
システムサポート売上高	23,424	27,057
売上高合計	※1 58,719	※1 65,068
売上原価		
システムインテグレーション売上原価	12,287	12,494
システムサポート売上原価	5,009	5,093
売上原価合計	※1 17,296	※1 17,588
売上総利益	41,422	47,480
販売費及び一般管理費	※1,※2 10,255	※1,※2 11,060
営業利益	31,167	36,419
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1,473	1,641
投資有価証券売却益	19	61
受取賃貸料	1	2
その他	68	91
営業外収益合計	1,563	1,796
営業外費用		
投資有価証券売却損	—	159
賃貸費用	108	120
その他	2	1
営業外費用合計	111	282
経常利益	32,619	37,934
特別利益		
償却債権取立益	888	2,060
その他	0	0
特別利益合計	888	2,060
特別損失		
固定資産除却損	0	1
投資有価証券評価損	130	—
その他	0	0
特別損失合計	131	1
税引前当期純利益	33,376	39,992
法人税、住民税及び事業税	9,787	11,399
法人税等調整額	△91	△107
法人税等合計	9,695	11,292
当期純利益	23,680	28,700

【システムインテグレーション売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)			当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		
		金額 (百万円)		構成比 (%)	金額 (百万円)		構成比 (%)
I 材料機器原価							
(1) 期首材料機器たな卸高		6			20		
(2) 当期材料機器仕入高		4,051			4,046		
合計		4,057			4,067		
(3) 期末材料機器たな卸高		20			43		
(4) 他勘定振替		453	3,584	29.7	682	3,342	27.0
II 労務費			7,129	59.0		7,596	61.2
III 外注費			175	1.5		188	1.5
IV 経費			1,189	9.8		1,278	10.3
当期総製造費用			12,079	100.0		12,406	100.0
期首仕掛品たな卸高			507			299	
合計			12,586			12,705	
期末仕掛品たな卸高			299			210	
当期システムインテグレーション売上原価			12,287			12,494	

原価計算の方法

当社の原価計算の方法は、プロジェクト別の個別原価計算であります。

(脚注)

前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
※1. 他勘定振替の内訳は、次の通りであります。		※1. 他勘定振替の内訳は、次の通りであります。	
工具、器具及び備品へ振替	355百万円	工具、器具及び備品へ振替	650百万円
消耗品費へ振替	27百万円	消耗品費へ振替	0百万円
システムサポート売上原価への 振替高	12百万円	システムサポート売上原価への 振替高	6百万円
その他	57百万円	その他	25百万円
計	453百万円	計	682百万円
※2. 労務費の主な内訳は、次の通りであります。		※2. 労務費の主な内訳は、次の通りであります。	
給料及び手当	4,877百万円	給料及び手当	5,236百万円
法定福利費	861百万円	法定福利費	918百万円
賞与引当金繰入額	1,009百万円	賞与引当金繰入額	1,054百万円
退職給付費用	199百万円	退職給付費用	183百万円
※3. 経費の主な内訳は、次の通りであります。		※3. 経費の主な内訳は、次の通りであります。	
減価償却費	249百万円	減価償却費	301百万円
賃借料	223百万円	賃借料	263百万円

【システムサポート売上原価明細書】

		前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 労務費		2,749	55.0	2,554	50.2
II 外注費		1,535	30.7	1,725	33.9
III 経費		712	14.3	807	15.9
合計		4,997	100.0	5,087	100.0
他勘定振替		12		6	
当期システムサポート売上 原価		5,009		5,093	

(脚注)

前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
※1. 労務費の主な内訳は、次の通りであります。		※1. 労務費の主な内訳は、次の通りであります。	
給料及び手当	1,881百万円	給料及び手当	1,761百万円
法定福利費	332百万円	法定福利費	308百万円
賞与引当金繰入額	389百万円	賞与引当金繰入額	354百万円
退職給付費用	77百万円	退職給付費用	61百万円
※2. 経費の主な内訳は、次の通りであります。		※2. 経費の主な内訳は、次の通りであります。	
減価償却費	149百万円	減価償却費	190百万円
賃借料	133百万円	賃借料	166百万円
※3. 他勘定振替の内訳は、次の通りであります。		※3. 他勘定振替の内訳は、次の通りであります。	
材料機器原価		材料機器原価	
システムインテグレーション売 上原価からの振替高	12百万円	システムインテグレーション売 上原価からの振替高	6百万円

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金		その他利益剰余金				
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	19,178	19,413	116	461	99,000	24,640	△22,137	140,673	
当期変動額									
剰余金の配当						△8,450		△8,450	
別途積立金の積立					12,000	△12,000		—	
当期純利益						23,680		23,680	
自己株式の取得							△0	△0	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								—	
当期変動額合計	—	—	—	—	12,000	3,230	△0	15,229	
当期末残高	19,178	19,413	116	461	111,000	27,870	△22,138	155,902	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合 計	
当期首残高	1,861	△1,705	155	140,829
当期変動額				
剰余金の配当				△8,450
別途積立金の積立				—
当期純利益				23,680
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	2,061		2,061	2,061
当期変動額合計	2,061	—	2,061	17,291
当期末残高	3,923	△1,705	2,217	158,120

当事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	その他利益剰余金				
					別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	19,178	19,413	116	461	111,000	27,870	△22,138	155,902	
当期変動額									
剰余金の配当						△11,118		△11,118	
別途積立金の積立					13,500	△13,500		—	
当期純利益						28,700		28,700	
自己株式の取得							△0	△0	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								—	
当期変動額合計	—	—	—	—	13,500	4,081	△0	17,580	
当期末残高	19,178	19,413	116	461	124,500	31,952	△22,139	173,483	

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価 差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合 計	
当期首残高	3,923	△1,705	2,217	158,120
当期変動額				
剰余金の配当				△11,118
別途積立金の積立				—
当期純利益				28,700
自己株式の取得				△0
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△967		△967	△967
当期変動額合計	△967	—	△967	16,612
当期末残高	2,955	△1,705	1,249	174,733

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

②その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

①原材料及び貯蔵品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

②仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法

（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。）

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～50年

その他 4～30年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア（自社利用）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率に基づき、貸倒懸念債権等については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えて、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額を計上しております。

数理計算上の差異は、翌事業年度に一括して費用処理することとしております。

4. 収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

(2) その他の工事

工事完成基準

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」1,009百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」2,150百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(1)(評価性引当額の合計額を除く。)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(追加情報)

(役員退職慰労制度の廃止)

当社は、2018年6月28日開催の第51回定時株主総会において、役員報酬制度改定の一環として、役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給(支給の時期は各役員の退任時)を決議いたしました。これに伴い、当社の役員退職慰労引当金全額を取り崩し、打ち切り支給に伴う未払額を固定負債のその他に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

※ 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	4百万円	7百万円
短期金銭債務	65	120

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	3百万円	5百万円
仕入高	258	287
営業取引以外の取引による取引高	76	191

※2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度64%、当事業年度62%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度36%、当事業年度38%であります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
広告宣伝費	1,061百万円	1,138百万円
給料及び手当	4,457	4,618
法定福利費	743	759
賞与引当金繰入額	780	770
役員賞与引当金繰入額	91	100
退職給付費用	155	136
賃借料	485	443
減価償却費	96	99

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度 (2018年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	8,061	92,543	84,482

当事業年度 (2019年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
子会社株式	—	—	—
関連会社株式	8,061	123,527	115,466

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位: 百万円)

区分	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
子会社株式	370	370
関連会社株式	72	72

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	325百万円	384百万円
賞与引当金	667	667
退職給付引当金	1,736	1,777
会員権	171	171
投資有価証券評価損	2,638	2,007
貸倒損失	21	21
その他	325	330
繰延税金資産小計	5,886	5,361
評価性引当額	△2,004	△1,371
繰延税金資産合計	3,882	3,989
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,731	1,304
繰延税金負債合計	1,731	1,304
繰延税金資産純額	2,150	2,685
再評価に係る繰延税金資産		
土地再評価差額金	523	523
評価性引当額	△523	△523
再評価に係る繰延税金資産合計	—	—
再評価に係る繰延税金負債		
土地再評価差額金	1	1
再評価に係る繰延税金負債合計	1	1
再評価に係る繰延税金負債の純額	1	1

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.6%
(調整)		
評価性引当額の増減	△0.7	△1.6
交際費の損金不算入額	0.1	0.2
受取配当金の益金不算入額	△1.0	△0.9
その他	△0.2	△0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.1	28.2

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	5,871	151	35	110	5,987	2,993
	土地	(1,705)				(1,705)	
	建設仮勘定	27,849	—	—	—	27,849	—
	その他	6,130	9,658	—	—	15,788	—
	計	2,662	720	178	450	3,204	2,089
		(1,705)				(1,705)	
		42,513	10,530	214	561	52,830	5,082
無形固定資産	その他	153	26	23	30	156	54
	計	153	26	23	30	156	54

(注) 1. 当期首残高及び当期末残高は取得価額により記載しております。

2. 土地及び有形固定資産計の当期首残高及び当期末残高欄における()内は、土地の再評価に関する法律(1998年法律第34号)により行なった土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。

3. 建設仮勘定の当期増加額9,658百万円は建設中である大阪府の建物への支出であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	3	2	1	5
賞与引当金	2,180	2,180	2,180	2,180
役員賞与引当金	91	100	91	100
役員退職慰労引当金	774	18	792	—

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り及び買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取及び買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告 (http://www.obic.co.jp) ただし、電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社は単元未満株式についての権利を定款に定めております。当該規定により単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下の権利以外の権利を行使することはできません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の買増しを請求する権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

1 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第51期)(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)2018年6月29日関東財務局長に提出。

2 内部統制報告書及びその添付書類

2018年6月29日関東財務局長に提出。

3 四半期報告書及び確認書

(第52期第1四半期)(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)2018年8月6日関東財務局長に提出。

(第52期第2四半期)(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)2018年11月6日関東財務局長に提出。

(第52期第3四半期)(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)2019年2月6日関東財務局長に提出。

4 臨時報告書

①2018年7月3日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月27日

株式会社オービック
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野水 善之 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中井 清二 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オービックの2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オービック及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社オービックの2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社オービックが2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (※) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月27日

株式会社オービック
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員	公認会計士	野水善之 印
業務執行社員		
指定有限責任社員	公認会計士	中井清二 印
業務執行社員		

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オービックの2018年4月1日から2019年3月31日までの第52期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オービックの2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(※) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。